

(事後評価)

## 地方総合大学における若手人材育成戦略

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：長崎大学（総括責任者：片峰 茂）

### プロジェクトの概要

重点研究課題領域において TT 制度を導入し、連綿と優秀な若手研究リーダーを生み出していくとともに、その定着を図るため特任教員制度を改善し、地方総合大学において世界的研究拠点を形成する際のモデルとなる若手研究者育成システムを実現する。若手研究者に 5 年間の TT 助教の身分と独立した研究環境を与え、自立的に独自の研究を行わせる。また、重点研究課題リーダーから TT 助教に対し研究への助言、支援を行うとともに、メンターがラボ運営、大学運営等について助言を行う。透明性の高いテニユア審査によって高いテニユア取得率を目指すとともに、中間評価において積極的にテニユアを与え、重点研究課題領域以外でも TT 助教の採用を開始する。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

重点研究課題を推進する全学テニユアトラック制（以下「TT 制」という。）と部局の研究力を強化する部局 TT 制を両立させる形で TT 制の普及・定着を図っていることは評価できる。今後は、重点型の仕組みやその成果を部局型に積極的に活かしていくこと及び工学系や文科系への導入を促進させることを期待する。

- ・ **目標達成度**：本機関が設定した 9 つの重点領域に対して 14 名のテニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）を採用し、十分な研究費を支援して自立的に研究を進めさせ、自機関のテニユア職への採用が高い比率であったことは評価できる。今後は、本プロジェクトの成果を活用して若手研究者が自機関に定着する施策の立案・実施を期待する。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：外国籍研究者や女性研究者を積極的に採用し、優れた若手研究者を育成し、テニユア職に採用したことは評価できる。また、TT 若手がトラック期

間途中で辞職・転出した原因を分析したこと及び TT 若手の個別の状況に配慮してテニユア審査の時期を設定したことも評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：本プロジェクトの実施責任者自らが TT 若手にヒアリングを行い、把握された問題点の改善に資したこと及びテニユア審査や研究費執行が柔軟に行われていることは評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：トラック期間途中で辞職・転出した TT 若手への意見聴取結果を活かして TT 若手の育成施策に反映させたこと及び実施期間中に全学レベルのテニユアトラック規程を制定し、全学的な取組を行ったことは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクトの実施期間中に部局型の TT 制を導入し、TT 制を全学的な取組として位置づけたことは評価できる。今後は、導入予定のポイント制人事制度を活用して、工学系、教育系、経済系などでの TT 制実施の促進を期待する。
- **中間評価の反映**：本プロジェクトに対する中間評価結果を真摯に受け止め、全学レベルの重点型 TT 制と部局型 TT 制の整合性を図るさまざまな取組が行われたことは評価できる。実施期間終了後の TT 制による採用率や裁量経費による研究費の措置など中間評価結果報告書に示した内容を反映した TT 制の継続・普及を期待する。